空中計測・マッピング部会 (MMS_WG) 活動報告

空中計測・マッピング部会 MMS_WG副WG長 阿部 亮吾

1. はじめに

空中計測・マッピング部会MMS_WGは、 2016年3月現在、会員企業32社で活動を行なっ ております。

2012年度に国土地理院より「移動計測車両による測量システムを用いる数値地形図データ作成マニュアル(案)」が公開されました。MMS_WGでは、同年にMMSの活用を目指して「MMS応用WG想定事例集」を作成いたしました。2015年には、測技協発行の「平成27年度版公共測量積算ハンドブック」に「移動計測車両による測量」として掲載されました。2016年には、国土地理院発行の「公共測量-作業規程の準則-(以下、作業規程の準則)」に車載写真レーザ測量として掲載されました。

現在、市場ではMMSの計測技術が定着化しております。MMS_WGでは、さらなる利活用を進めるなかで、MMSガイドブックの作成、航空レーザと車載写真レーザセミナーの開催、製品仕様書と品質評価表等のJPGIS準拠を中心に活動いたしました。

2. 2016年度MMS WG活動

WG開催の日程と概要は表1の通りです。

3. MMSガイドブックの発行

MMS_WGではさまざまな分野でMMSの利活用が進むことで業界全体の技術力向上や業務領域の拡大に資することを目的として「MMS応用WG想定事例集」を作成いたしました。現在では、その想定事例集に記載された内容を含む多岐にわたる分野でMMSが利用されてお

表1 MMS_WGの活動概要

MMS_WG第1回 2016年4月27日

- ・準則への記載の報告
- ・MMSガイドブックの最終整理
- ・今年度の活動テーマ

MMS_WG第2回 2016年6月24日

- ・MMSガイドブック発行
- ・MMS積算ハンドブックマクロ化

MMS_WG第3回 2016年9月20日

- ・予測誤差検証場所の決定・準備
- ・航空レーザと車載写真レーザセミナー実施

MMS_WG第4回 2016年11月1日

・予測誤差検証場所の準備

MMS_WG第5回 2016年12月14日

・製品仕様書と品質評価表等のJPGIS準拠

MMS WG第6回 2017年1月12日

・製品仕様書と品質評価表等のJPGIS準拠

MMS_WG第7回 201 7年2月24日

・製品仕様書の確認

り、また機器性能も向上しております。そのため、さらなるMMSの利活用を推進することを目的として、MMS概要と機器一覧表、利活用事例を「MMSガイドブック(車載写真レーザ測量の手引き)」としてまとめました。このガイドブックは測技協のHPから無償でダウンロード可能となります。

4. MMS製品仕様書と品質評価等のJPGIS 準拠

MMSは平成28年3月31日改正の「作業規程の準則」に数値地形図作成の作業手法として新たに追加されました。

それに伴い、今後は公共測量で使用される



図1 MMS ガイドブック (車載写真レーザ測量の手引き)

地理空間データ製品仕様書↓ 三次元点群データ↓ 平成××年×月. · · ·

図2 製品仕様書サンプル

			品值	雪評価 表	長 総括表	6		模式第2-	
25 .	4 6	〇〇市三次元点	37777	-c111111111111111111111111111111111111	C 100/1038	10			
ライセンス		〇〇市(計算機関名)			作成時期 平成〇〇		BORO#C		
作成者		〇〇市〇〇部〇〇課(気息仕様舎)」と転載			PRODUCTOR AND THE PRODUCTOR		角座構茶 〇茶		
微 热区(比地名		○○市(ロロ地区などでもよい)			校香实施者 🛂		株式会社 0000(特集級國·社		
≅		3376 No 1	品首果本						
	テータ場質適用範囲		竞全性	論 是 一貫性	性 庫 正確度	時間正確度	主鬼正確度	品質許信特果 (合否)	
r.	≡决	元点件モアル	'1	^	公共河豊作泉 規程第124条4 に規定対比。 地図情報し、 ルによる大学 世域、海域の 間であること	; -	a	会権 (最高要求を演 せば 会格 川	

図3 品質評価表サンプル

頻度が増えると考えられるため、測量成果の データ構造を記述した製品仕様書と品質評価 表を作成することが必要となります。

当WGでは、測技協が国土地理院より受注した「平成28年度地理情報標準に関する調査検討業務」の作業の一環としてMMSの測量成果に対して、JPGISに準拠した製品仕様書とそれに定められた品質を評価するための品質評価表の内容を検討し、サンプルを作成致しました。

5. 2017年度のWG活動

昨年度から検討している予測誤差の検証作業を進めております。また、「作業規程の準則」の利用に関する意見集約や応用測量分野への適用について検討を実施しております。